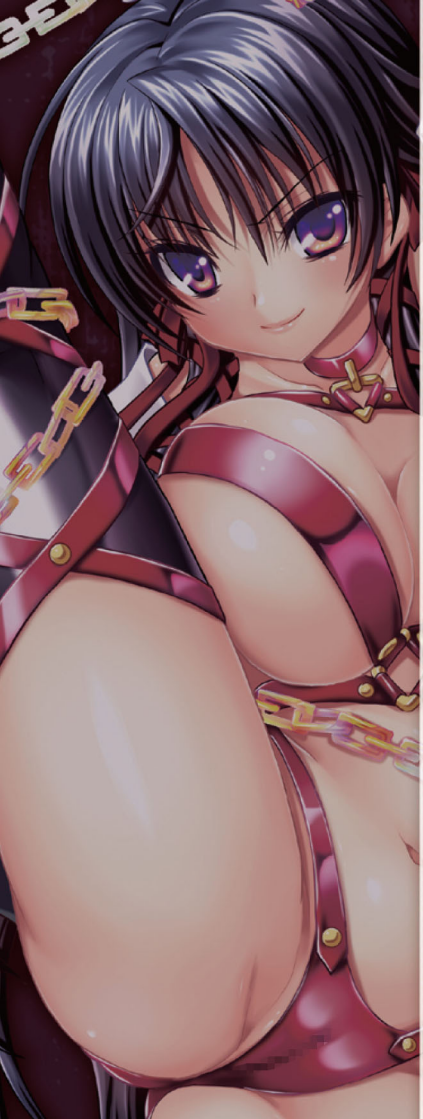
呪詛喰らい師2
（カースイーター）

蒼井村正
挿絵／或十せねか

あとみっく文庫

立ち読み版



目次

封の一 / *8*
小悪魔、再び
コアクマ、フタタビ

封の二 / *65*
淫尾
インビ

封の三 / *106*
淫蕩なる来訪者
イントウナルライホウシャ

封の四 / *152*
濡妖
ジュヨウ

封の五 / *199*
操神乱交
ソウシンランコウ

封の六 / *246*
淫人魔宴
インジンマエン

呪詛喰らい師2
カースイーター

"CURSE EATER 2"

Written by Aoi Muramasa
Illustrated by Alto Seneka

登場人物

雪村有佳
ゆきむら ゆか

咲妃のクラスメイト。淫神に取り憑かれたところを咲妃に救われて以来、レズ友達として愛しあっている。

岩倉信司
いわくら しんじ

都市伝説研究部の部長。様々な怪異を追っているうちに、淫神の事件に巻き込まれる。

稲神鮎子
いながみ あゆこ

学園の生徒会長。信司の幼馴染みで、いつも彼のことを気にかけている。

瑠那・イリュージア
るな・いりゅーじあ

霊を操る術を得意とする魔術結社「レメゲトン派」の生き残りの少女。春先に咲妃を襲撃し、返り討ちにあった。

常磐城咲妃
ときわぎ さき

「呪詛喰らい師」という異名を持つ少女。幼いころから退魔師としての修業を積んでおり、淫神を自身の身体に封じる使命を帯びている。封じた淫神の力は使うことが可能。一般常識が少し欠けていて、バレ句や猥談が好き。

あらすじ

人の強い想いを糧とする半妖神――淫神を封じる使命を帯びた退魔師の常磐城咲妃。「呪詛喰らい師」の異名を持つ退魔師の常磐城咲妃は、呪印術と「ウズメ流神伽の戯」を駆使して淫神たちを鎮める使命を帯びていた。

そんな彼女が派遣された街では、淫神事件が次々と起き始める。転入した学園でさっそく「淫ノ根」に取り憑かれた雪村有佳を助けると、「淫水蝶」「淫夢人形」「幽霊バス」といった都市伝説を手掛かりに、咲妃はその豊満な身体を捧げて淫神を封じていく。

淫神の調査をしつつも咲妃は、「淫ノ根」に取り憑かれていたクラスメイトの雪村有佳や、都市伝説研究部部長の岩倉信司、信司の幼馴染みで学園の生徒会長の稲神鮎子らとの仲を深めていくのだった。

そして学園の文化祭を数日後に迎えたある日、「淫水蝶」や淫夢人形に宿った淫神を咲妃に奪われたことを逆恨みした淫神コレクターの瑠那・イリュージアが襲撃してくる。人質に取られた有佳たちを助け出し、ついに瑠那のもとに辿りつく咲妃だったが、淫神の暴走を受けた瑠那が淫神「大淫婦」に取り憑かれてしまう。瑠那を助けるため、咲妃は体内に封印した淫神の力を使って「大淫婦」を封じるのだった。

通勤ラッシュが始まるまで、間がある時間帯故、座席はがら空きだったが、槐宝学園の制服に身を包んだ呪詛喰らい師は、吊革に掴まって立っている。

（一時的に依り代にした男どもを操って、女を辱め、喜悦の気を吸う淫神か。おそらく、時空結界生成の能力まで持っているとなると、かなりの難物だな）

信司が連れてきた少女の供述に従い、先頭から二両目の車両に乗った呪詛喰らい師は、質問から得た情報を整理しつつ、発車の時を待つ。

咲妃以外の乗客は、たくましい体格をした、二十代前半の大柄な男性、高級そうなスーツに身を包んだ銀縁メガネの男性、ギターケースを持ったパンク風ファッションの若者、職業不詳のジャンパー姿の初老男など、男ばかり四人。

発車待ちの間に、車両のドアに女性にのみ有効な接近忌避の呪印を描き込んでおいたので、この客車に乗っている女性客は、咲妃一人きりだった。

発車のベルが鳴り、ドアが閉まる。

「解ッ！」

発車と同時に、呪印使いの少女は、豊乳に刻印していた「印象希薄化」の呪印を解除した。それまで、咲妃の存在に気付いていなかった男たちの視線が、制服姿の美少女に集中する。

（さて……準備は万端。痴漢を操る淫神は、最高の餌である私に、どんな趣向で喰いついてくるかな？）

これから、人外の力を借りた痴漢どもを相手にしようというのに、呪詛喰らい師（カースイーター）の口元には不敵な笑みが浮かんでいる。

闇に包まれたトンネル内を走ること数十秒、次の駅との中間地点あたりにさしかかった時に、変化が起きた。

最初の異常は、音の消失だった。

地下鉄特有の、ゴーッという走行音が唐突に消え、車内を静寂が満たす。

次に、足元から悪寒にも似た感触が這い上がってきて、身体の自由が奪われた。

（身体が重い……。だが、金縛りの呪術としては、それほど強力なものではないな）

呪詛喰らい師（カースイーター）の少女は、全身を包み込んでくるような金縛りの感触を冷静に分析している。身悶えはできるが、激しい抵抗はできず、喘ぎや小さな拒否の声は出せても、悲鳴や怒声は上げられない。そんな、絶妙な力加減の呪縛に包まれた少女の周囲で、乗客の男たちが動き出す。

「地下鉄に、意馬心猿（いばしんえん）の群がるる朝……。痴漢たち、早速のお出ましとは、よほど女に餓えていると見える」

金縛りにも動じることなく一句詠み、不敵な笑みを浮かべた咲妃の周囲を、下卑た笑みを浮かべた痴漢どもが取り囲んだ。背後に、ひときわ体格のいいマッチョ男が立ち、左右の床に、銀縁メガネのスーツ男とパンクファッションの若者が座り込む。

「今日の獲物は、とびきりの美人ちゃんだなぁ」

吊革を掴んだまま身動きできぬ咲妃の正面に着座した中年男は、凛とした美貌の少女を視線で犯しながら、酒とタバコの臭気が交じった息を吐きかけてきた。

「……」

金縛りに遭った少女は、無言のまま、蔑(さげす)みの視線で中年男を睨みつける。

「動けないのに全然怯えていないのは、たいした度胸だね。でも、助けは絶対に来ないよ」

淫神の加護を受けている痴漢は、ニヤリ、と好色そうな笑みを浮かべた。

「オヤジさんの言う通りだ。オレたちが満足するまで弄りまくってイかせてやるよ！　うほぉ、このデカパイの弾力、たまんねぇ！」

背の高いマッチョ男は、制服の胸元を突き上げた豊乳を鷲掴みにして揉みこねながら、野卑な歓喜の声を上げた。

「ンッ！　くふうぅっ！」

荒々しくこね回された乳房から、信じられないほど深く強い悦波が湧き起こって、咲妃に艶めかしい呻きを漏らさせる。

（この快感……淫神の技巧が、男の手に付与されているのか？）

男の手指が、量感たっぷりな果肉にめり込んで蠢くたびに、人の愛撫ではあり得ない快感の波紋が乳房の奥底にまで染み通ってきて、ただでさえ豊かなバストが弾力を増して張り詰めてゆく。

重力に逆らうかのように、ドーム状の突出を際立たせた乳球の先端では、勃起し始めた

乳首が、シャツの布地をツン！　と突き上げて、絶好の攻撃目標を見せつけてしまっていた。
「制服の下に、ボンデージコス着てるのか⁉　超クールじゃん！」
床に座り込んだパンクファッションの男が、革帯に緊縛された咲妃の美脚を撫で回しながら言う。
「お褒めにあずかり光栄だ。……お前の鼻ピアスは、全然クールじゃないな」
内腿を撫で回されるくすぐったい感触に身じろぎしながらも、呪詛喰らい師（カースイーター）は勝ち気な口調でパンク男を挑発する。
「きっつい性格してるなぁ。でも、今の状況考えてしゃべった方がいいぜ……ほおら、パンティーに指が届いちまうぞ」
滑らかな腿を這い上がったパンク男の指は、スカートの中に侵入し、腿の付け根に到達して卑猥にざわめいた。
「ん？　……おいおいマジかよ！　こいつ、パンティー穿いてねぇ！」
くすぐったげに身をよじる咲妃の股間をまさぐった男は、素っ頓狂な声を上げる。
「おいおい、大胆な娘だな。こんな格好は、校則違反じゃないのかね？」
制服のスカート越しに尻を撫で回していた銀縁メガネが、非難がましい口調で問いかけてくる。
「ンッ……痴漢に、校則うんぬんについて説教されたくないな」

制服の下に、ボンデージコスのみを身にまとった少女は、あくまでも勝ち気な態度を崩さずに言い返した。
「なかなか言うじゃないか。こういう気の強い女の子を虐めてよがり泣かせるのが堪らないんだよ！」
サディスティックな笑みを浮かべたメガネ男は、制服のスカートをずり下げた。
深紅の革帯ボンデージに彩られた、魅惑的な下半身が男どもの視線にさらされる。
「ほおお、こいつは本格的なボンデージじゃないか。随分高級品だな……こんなにエロい格好して電車に乗っているのは、ご主人様に命令されたからなのかな？」
咲妃の退魔装束を、ＳＭプレイの一環だと思い込んだメガネ男は、革帯を深々と咥え込んだ美尻を執拗に揉みこねながら問いかけてくる。
「ンッ……フフッ、まあ、そんなところかな……くふうぅンッ」
尻から伝わる人外の愉悦に呻いてしまいながら、神伽の巫女は、挑発的な言動で痴漢どもを昂ぶらせた。
「おいおいマジかよ！　こんな美人女子校生にエロ命令出すご主人様が羨ましいなぁ、今日はご主人様の代わりに、俺たちがメチャメチャにイかせまくってやるよ！」
咲妃の言葉を鵜呑みにしたパンク男は、腿の狭間に滑り込ませた手で、薄皮一枚だけに守られた秘部を狙ってくる。
「おいおい、そうガッつくんじゃないよ。時間はたっぷりあるんだから、じっくりと楽し

もうじゃないか。……実にいいプロポーションをしているね」
性急すぎる男どもをやんわりとなだめたリーダー格の中年男は、両手を伸ばし、制服のボタンを器用な手つきで外し始める。
ボタンが全部外れると、既に鼻息を荒げているマッチョの手でシャツの胸元が大きく掻き開かれ、スカートも半脱ぎ状態にずり下げられた。
「こいつは想像以上に色っぽい身体だな、ＳＭ衣装もすごく似合っているよ」
革帯緊縛された極上の半裸身に感嘆の声を上げた中年男は、制服半脱ぎ状態で身動きできぬ少女のボディラインを撫で上げてきた。
骨張った指が、形よく張り出した安産体型の骨盤をなぞり、細くくびれたウエストを撫でくすぐり、肋骨の数を数えるかのように、脇腹をじっくりと揉み上げてくる。
「ひぅ！　くぁ、あっ、ふぁ……ンッ、はぁぁ……うっ！」
柔肌の内側にまで染み通ってくるような快感に、切なげに眉を寄せ、甘く湿った喘ぎを漏らす咲妃。色白できめ細かな肌が桜色に上気し、甘くかぐわしい汗を噴き出して、ボンデージ姿の半裸身を艶めかしく濡れ光らせた。
（この中年男の指……とてつもなく濃厚な淫神の気が宿っている。ひょっとして、こいつが依り代か？）
わずかに細められた退魔少女の目には、ボンデージコス姿の肢体をまさぐる中年男の手が、薄紫色のオーラに包まれて輝いているように見えている。

同様のオーラ光は、はだけられたシャツ越しに乳房を揉みしだいているマッチョや、左右の腿から尻のあたりを執拗に撫で回しているパンクとメガネの手にも宿っていたが、中年男ほどの強い光は放っていない。

「これまで弄ってきた中で、間違いなく最高の尻だ。こんなに大きくていやらしい尻なら、学校の男子たちが放っておかないだろう？」

感極まった調子の声を上げたメガネ男が、プリッと張り詰めた尻たぶをくすぐるようにしながら撫で回す。

左右の張り出しもさることながら、後方への突出も顕著な美尻の表面を、興奮で汗ばんだ男の手指が這い回り、量感たっぷりな尻たぶを好き放題に揉み嬲り、極上の触り心地を堪能している。

「ンッ……くふぅ……んッ」

撫で回された尻肉から、ゾクゾクするような悦波が湧き起こって、呪詛喰らい師（カースイーター）は色っぽい呻き声を上げてボンデージ緊縛された肢体をくねらせる。

「どこを弄っても、感度が抜群じゃないか。このけしからん肉体を武器にして、学校中の男子生徒たちを手当たり次第に喰いまくっているに違いない」

銀縁メガネをかけた男は、勝手な妄想を口走りながら、ムッチリと肉感的に盛り上がった少女の尻肉を揉みしだき、革帯を咥え込んだ尻たぶの狭間に指を滑らせる。

「さすが尻フェチの先生。じゃあ、俺は前の方を焦らしながら弄らせてもらいますよ」

太腿を撫で回していたパンクの指が、きわどいV字形に切れ込んだ股間部分に触れてきた。
「このスベスベ具合、剃ってるんじゃなくって、完全脱毛？　それとも、生まれつきツルツルのパイパンなのか？　ああ、いい手触りだなぁ」
革帯の両側にムッチリとはみ出した土手肉を執拗に撫で回しながら、パンク男は恥ずかしい尋問を仕掛けてくる。
「ご想像に……お任せする……ひゃうっ！　うぁ、んんっ！」
メリハリの利いたしなやかな肢体を好き放題に嬲られる快感に耐えながら、咲妃は痴漢たちの様子を観察していた。
（ペニスは勃起していないか）
極上の反応と触り心地を伝えてくる少女の肉体に興奮しながらも、男どもの股間には勃起の盛り上がりが見られない。痴漢の手指に神格のテクニックを貸し与えている淫神は、嬲られる女体が放つ喜悦の波動を、純粋な状態で吸引したいようだ。
（淫神の力が宿っているのは、どうやら手だけのようだな。だから、舐めたり、ペニスを擦りつけてきたりしないのか……陽の気を好まぬ淫神……ならば、このまま続けて、淫神本体との結縁を行なう機会を待つのが得策）
そう判断した神伽の巫女は、痴漢どもが与えてくる辱悦に身を委ねる。
「まさに餅肌、指にしっとりと吸いついてくるよ」

若々しい張りに満ちた十代の素肌を堪能した中年男の指は、マッチョ男に荒々しく揉みしだかれている豊乳に向かって滑り上がってくる。
あくまでも優しく、羽毛で撫でているような、微妙な距離を保ちながら、淫神の神気をまといつかせた指が、引き締まった裸身を這う。
「く……うっ……はぁぁぁう……ンッ！」
快感神経がチリチリと燃えくすぶるような悦波の塊が、指の動きに連動して脇腹をせり上がり、勝ち気な少女の顔を切なげに歪めさせた。
吊革を掴んだままの状態で固着した少女の汗ばんだ脇下に到達した中年男の指は、滑らかで敏感な肌を撫でくすぐる。
「ひゃふぅっ！　んっ、ひくうっ……きゅふううんッ！」
「くすぐったいかね？　でも、それ以上に気持ちいいはずだよ」
少女の敏感な反応に気をよくした痴漢のリーダーは、指先をサワサワと蠢かせて、脇の下の敏感肌に掻痒快感を送り込んでくる。
「オレたちのテクは、そこらの男どもとは桁が違うぜ。乱れまくってイッちまいな！」
豊乳を独り占めしているマッチョ男は、大きな手でも握りきれぬボリュームの肉果をこね回し、革帯の表面に浮き出た乳首のポッチを指先で掻きくすぐる。
ボンデージの下で、敏感な突起はさらに感度を増して勃起度を増し、男の指に弾かれて喜悦の波紋を連続して発生させた。

「ひっ、あ、ぁぁ……そこ……そんなに……はぁぁんッ！」
半裸に剥かれた少女は、革帯緊縛された肢体をビクビクと震わせ、色っぽく潤んだ喘ぎを漏らして、女悦に蕩けた美貌を仰け反らせた。
汗ばんだ半裸身から、甘くかぐわしい淫臭がフワリ、と香り立つ。
「ああ、いい匂いだ、たまんねぇ！　涎が出てるじゃねえか、舐めてやるよ」
仰け反った咲妃の爆乳をさらに強く握り締めながら、マッチョ男は頬を伝う喜悦の涎に向かって舌を伸ばす。
「こらッ！　舐めるんじゃない！　オヤシロ様が機嫌を損ねるじゃないか！」
リーダー格の中年男が、すごい剣幕で叱りつけた。
「すっ、すいません、つい……」
怒声を浴びせられた男は、筋肉質の巨体を、ビクッ！　と強張らせて謝る。
「オヤシロ様……だと⁉」
「お嬢ちゃんは気にしなくていい。何も考えずに、気持ちよくなってればいいんだ」
先ほどの怒声とは一転して猫なで声になった中年男は、咲妃の脇の下を絶妙の力加減で刺激して、淫神の力を借りた愛撫を仕掛けてくる。
「ひぁ！　あっ、くふぅんんっ！」
乳房の快感をも上回る悦波に両脇を襲われた神伽の巫女は、自由にならぬ身体を左右に捩らせてよがり悶えた。

「実にいい反応をする娘だね。どれ、そろそろイかせてあげようかね？」
満足げな笑みを浮かべた男は、豊乳を緊縛している薄皮の表面に、あからさまなポッチを浮き出させたバストの先端を、左右同時に摘んで揉み転がした。
摘んだ指の間で、これ以上ないほどに充血した乳頭が楕円形にひしゃげ、左右の捻りに合わせて、お椀型の乳球全体がプリンのように震えわななく。
「ふわぁ！　あっ、ヒッ、いっ……んきゅううう……ンッ！」
敏感な突起を強烈な快感の矢に貫かれたボンデージ少女の身体が跳ね上がり、吊革をきつく掴んだまま左右に身をよじって身悶える。
マッチョ男の荒々しい愛撫と比べると、中年男の指の動きは小さなものであったが、とてつもない快感を発生させて、性感豊かな呪詛喰らい師（カースイーター）は、たちまちのうちに絶頂の瀬戸際まで追い込まれてしまう。
「こんなに大きいのに垂れていないなんて、さすがに若いオッパイは違うな。直（じか）に弄って、もっと一杯気持ちよくしてあげるよ」
中年男は、乳首を覆っている革帯をずらそうとするが、過剰なまでに張り詰めた乳肌に密着した薄皮は、ビクとも動かない。
「おかしいな……まあいい、このままでも十分にお嬢ちゃんをアクメさせられるからね。みんな、サポートよろしく」
痴漢仲間たちに声をかけたリーダーは、革帯越しの乳首責めを再開する。

「了解っス！　じゃあ、俺は内腿サワサワ攻撃しちゃうよぉ！」
パンクの指先が、汗ばんだ内腿から股間までをいやらしい指使いで撫で回す。
尻の谷間に侵入してきたメガネ男の指は、薄皮越しにアナルの蕾を探り当てて、グリグリと掘り返すように責め立てていた。
「エロい顔して喘ぎやがって……お口の中も弄ってやる」
熱い喘ぎを漏らす唇にまで、マッチョ男の指が這わされ、口腔内にも侵入してきて、喜悦の涎に濡れた舌を弄ぶ。
「ふぁ、あふぅ……ンッ、くちゅ……くちゅるっ……」
神の技巧に翻弄された呪詛喰らい師（カースイーター）は、塩辛い指に口腔内を掻き回され、柔らかな舌を摘み嬲られて、恍惚の表情を浮かべる。
「ホント、堪んねぇ身体だな。オレたちなしじゃいられないようにしてやるよ！」
咲妃が見せる、艶めかしい反応に昂ぶった痴漢どもは、淫神の技巧を付加された指で全身の性感帯を弄り回す。
「ひぐっ、いっ、ヒッ、はぁぁ……んはぁぁぁ……ンッ！」
少女の身体は、津波のように押し寄せる悦波に抗えず、切れ切れのすすり泣きを漏らして快感の沸点へと追い込まれてゆく。
「最初は、このでっかいオッパイをイかせてあげるよ」
中年男の指は、痛いほどに勃起した乳首を張り詰めた乳肉の内側に押し込みながら、卑

猥な屈伸を開始した。
それはまるで、たわわな乳房を女性器に見立てたピストン運動だ。
強引に押し込まれた勃起乳頭が乳肉深くにまで埋め込まれると、乳房の芯を痛悦感の稲妻が貫き、荒々しいストロークに連動して、豊乳がタプタプと揺れ弾む。
ギチュ、ギシュッ、ギチッ……革帯ボンデージの軋む音を立てながら、乳首と乳肉が指ピストンで犯され、甘く裏返った少女の喘ぎ声が、沈黙に支配された地下鉄車内に響いた。
「そおら、これでイッちまいな！」
ぎちゅううっ！　ぐりいいいっ！
ひときわ深く押し込まれた勃起乳首が、乳肉の奥底で激しいヴァイブレーションに責め立てられ、高まりきっていた快感曲線を、一気に沸点にまで押し上げる。
「あひいっ！　いっ！　くはぁぁぁ……ふぁ、あぁぁぁぁ～んっ！」
咲妃は乳房への愛撫だけで、最初の絶頂へと舞い上がっていた。
マッチョ男の腕の中で、メリハリの利いたボンデージボディが跳ね上がり、女悦の頂点に火照った柔肌が、甘い淫臭を放つ汗を噴き出してグッショリと濡れ光る。
「さすがはオヤジさん！　オッパイ責めだけでイかせちまったぜ」
電流を通されているかのように震えている咲妃の内腿を撫で回し、爪を立ててくすぐって責め立てながら、パンク男が感嘆の声を上げた。
「オヤシロ様が授けてくださった力のおかげだよ……おお！　この娘（こ）、すごいね。こんな

に濃い絶頂の気は初めてだよ」
顔を仰け反らせてエクスタシーに震える咲妃の豊乳に指を喰い込ませたまま、中年男は驚きの声を上げた。
「オレにもわかりますよ。この女の身体から、熱いのがどんどん流れ込んでくる」
咲妃の身体を抱きかかえて支えているマッチョ男も、心地よさげに目を閉じて、手指から流れ込んでくるエクスタシーの波動に酔いしれている。
少女が放つ絶頂の波動は、男たちの手を通じて、どこかにいる淫神の本体へと送り込まれているようだ。咲妃のエクスタシー痙攣は、数分間に渡って続いた。
「どうだい？　人生最高の絶頂だっただろう？」
マッチョの腕の中で、グッタリと弛緩して喘いでいるボンデージ少女に、痴漢のリーダーは勝ち誇った声をかけてくる。
（乳首責めだけで、これほど深くイかされるのは、これが初めての経験だな……）
言いようのない悔しさを感じながらも、神伽の巫女の口元には、してやったりという笑みが浮かんでいる。
（淫神との結縁は一応、成功した。だが、神の本体が顕現（けんげん）しない限り、神伽の戯は行えない。あまり気乗りはしないが、さらに多く、絶頂の気を送らないとダメか……）
「ハァハァハァハァ……もっと……」
色っぽい喘ぎの合間に、咲妃は小さくかすれた声を搾り出す。

「ん？　何だって？　よく聞こえなかったな」
「もっと……気持ちよく、してくれないか……身体が、熱くて堪らないんだ」
神伽の巫女は、汗ばみ紅潮した美貌に淫靡な表情を浮かべ、男の淫情を沸き立たせる甘く潤んだ声で、愛撫の続行をねだった。
「もちろんだよ。何十回でもイかせてあげるよ」
「今日だけじゃないぜ。これから毎日、可愛がってやるから、今日と同じ時間に地下鉄に乗るんだぞ、いいな⁉」
咲妃の肉体の虜になった痴漢たちは、汗ばんだ柔肌への愛撫を再開する。
「きゃっ！　何するのよ！　放しなさいッ！」
喘ぎ始めた呪詛喰らい師の耳に、甲高い少女の叫び声が飛び込んできた。
「おい、見ろよ！　こんなところに、女の子が隠れていたぞ！　うひょぉ！　金髪じゃん。可愛いねぇ」
一休みしていたパンクが、少し離れた座席の陰に身を潜ませていた小柄な身体を引っ張り出す。
「瑠那⁉　なぜ、付いてきた？」
パンクに抱きかかえられて力なくもがいているのは、死霊使いの金髪娘であった。
「ふぁ、だっ、だって、リシッツァが盗み聞きしてきた話を聞いてたら、気になって仕方がなかったんだもん！　……こらぁ！　お尻触るなぁッ！」

「アタシも大丈夫……まさか、あれも淫神なの？」
ずぶ濡れになりながらも、有佳と瑠那は無事であった。
「ああ。水の精霊が変異した曲ツ神、『水蠢』だな。しかし、なぜ、そんな神格が、いきなりこんな場所に!?　鮎子が感じていたのは、こいつの霊臭だったのか!?」
生き物のようにうねるプールの水を警戒しつつ、咲妃は、もっと本気で調べればよかった、と、己の自信過剰に唇を噛む。
大波が引いた後のプールサイドには、意識を失った少女たちと教師が、浜辺に打上げられた魚の群れのように折り重なって横たわっていた。
「彼女らも、命に別状はないようだな。だが、この現象、どう見ても不可解だ」
神気の探知能力に優れた神伽の巫女に予兆を感づかれもせず、プールの水にいきなり神格が宿ることなど、万に一つもあり得ない。
「まさか……、またあの女、ゼムリヤの仕業か？」
咲妃の脳裏に、淫蕩きわまりない褐色美女の顔が浮かぶ。
（遊園地での一件で、奴は亜神を顕現させる秘薬、『反ネクトル』を使用していた。あれを使えば、プールの水に神格を宿らせることも不可能ではないはず……）
疑念を抱く呪詛喰らい師の目の前で、神格を宿したプールの水は、新たな行動を起こす。スライムのように蠢く水のあちこちから、透明な触手が何十本も伸び出て、咲妃たちに襲いかかってきた。

「ひゃああう！」
悲鳴を上げる有佳の手足が拘束され、身動きを封じられる。
「キャワァァッッ！　はっ、放しなさいよぉ！」
胴に巻きついた水触手によって、旧型スク水姿のロリータボディが宙に浮いた。
「有佳ッ、瑠那ッ！」
駆け寄ろうとした咲妃の全身も、透明なゼリー状の水縄によって緊縛される。
たわわなバストが競泳水着越しにギチギチと締め上げられ、ヒップの谷間や股間に、水の触手が容赦なく喰い込んできた。
「く……この淫神、やはり神気に餓えている……未完成体だな」
神伽の巫女は、身体に巻きついた水触手から伝わる感触から、淫神の状態を察知する。遊園地に現われたワラシ神と同じく、プールの水に宿った神格も、神気が不足した不完全体の状態であった。
（私の肉体に取り込むには、結縁もできていないし、神気が拡散しすぎている。何とか神気を収束させて、縁を結ばねば……）
強靱なゼリー塊のような感触の透明触手に緊縛されながらも、神伽の巫女は冷静に対処法を模索している。
そんな彼女の極上ボディを、餓えた淫神の触手が嬲る。
シュルシュルシュルシュルルルルッ！

涼やかな水鳴りの音を立てながら、競泳水着の股間に密着した水触手の表面に、小さな渦巻きがいくつも生じた。

等間隔に渦を並べたその様子は、まるで吸盤を密生させたタコの触腕を思わせる。

タコの吸盤の代わりに、旋回する渦を連ねた水縄は、競泳水着の股間に深く喰い込んできた。布地を浸透してきた粘水の渦巻きは、最も敏感な突起を包み込み、激しい旋回運動で嬲り抜く。

「はぁぁぁぁぁウンッ！」

渦巻く水流に捉えられた陰核から発した鮮烈な悦波に色っぽい声を上げた咲妃は、競泳水着に包まれたしなやかな肢体を弓なりに仰け反らせつつ、プールサイドに倒れ込む。

「咲妃さんッ⁉　これ以上酷いことはさせませんッ！　ンンンンンッ！」

顔を真っ赤にした有佳が水着姿の肢体に力を込めると、華奢な手足に絡みついていた水触手が、パチュン！　ビシャァンッ！　と飛沫を散らして引きちぎられた。

ペニス型の淫神、淫ノ根に憑依されていた彼女は、淫神が咲妃の肉体に封じられたのちも、神の依り代である「かんなぎ」として、すさまじい怪力を発揮することができるのだ。

「今、助けます、咲妃さんッ！」

触手の緊縛から逃れたかんなぎの少女は、仰向けに倒れて悶えている恋人のところに駆け寄ってゆくが、新たに這い寄ってきた触手にあっさりと捕らえられた。

「やぁぁっ！　放してくださいッ！」

抵抗しようとした有佳は、なすすべもなく囚われていた瑠那と背中合わせの姿勢で縛り上げられてしまう。
「あぁぁ、これじゃあ暴れられないです……」
かんなぎの少女は、困惑の声を上げて抵抗を中断した。
身体を縛(いましめ)める水触手を強引に引きちぎろうとすれば、背中合わせに縛られた瑠那が無事では済まない。
「瑠那さんの術で、何とかならないんですか？」
「むっ、無理よォ！　リシッツァは教室に置いて来ちゃったし、この場所に満ちた神気が強すぎて、低級霊なんて呼べないわ！」
背中合わせで縛られた恋のライバルに呼びかけられた金髪の繰霊術師は、悔しげな表情を浮かべて叫び返した。
「このおおお！　神様だからって、時と場合をわきまえずに出てこないでよぉ！　さっさと咲妃お姉ちゃんに封印されちゃぇえっ！　んぐぅ!?」
甲高い声で叫ぶ瑠那の口に猿ぐつわ状の水触手が噛まされ、声を封じられる。
邪魔者を排除した水型淫神は、極上の精気を放つ神伽の巫女を愛で始めた。
水着の内部に這い込んできた触手によって、乳首に貼られていた保護シールがピリピリと剥がされ、濃紺の生地を尖らせた乳頭のポッチにも、渦巻く水が吸いついて嬲りを仕掛けてくる。

左乳房に刻印していた、印象希薄化の呪印も、あっさりと洗い落とされ、呪詛喰らい師（カースイーター）の過剰なまでにエロチックな肢体が、欺瞞のヴェールを剥がされる。
「ひぁ、はぁぁぁぁうんっ！」
仰け反る咲妃の股間で、陰核を取り巻く水の渦は、さらに激しさを増し、敏感な突起を水着の股布越しにねじ切らんばかりに玩弄した。
「あぁぁ、そんなに捻ったら、淫ノ根が……ッ！」
限界を超えた勃起を強要されたクリトリスは、さらに体積を増し、グングンと伸び上がりながらペニス化を開始してしまう。
「あぁぁっ！　出て……来るッ！　くぁ、はあぁぁぁぁ〜ンッ！」
艶めかしい声をプール内に響かせた咲妃の肢体が、硬直し、痙攣する。
濡れて密着した競泳水着の股間に、見事な男性器の輪郭をくっきりと浮き出させて疼き猛った淫ノ根は、弓なりに反り返った肉茎の充血を際立たせて顕現した。
少女の勃起を引きずり出した水触手は、それ以上の追撃を仕掛けず、あっさりと股間から撤退する。
「ハァハァハァハァ……」
陰核がペニス化する際に発生した超絶快感の余波に喘ぎながら、呪詛喰らい師（カースイーター）は淫神の意図を悟っていた。
（淫ノ根の精液に含まれる陽の神気を欲しているのか？　ならば、望むままに与えてやる

しかないが……）

この後の淫辱を覚悟した神伽の巫女の美貌に不安の表情がよぎる。

有佳との性行為においても、咲妃は淫ノ根のペニスを実体化したことがなかった。

理由はただ一つ。快感が大きすぎて、理性を維持できなくなる危険が伴うからだ。

淫夢神の能力を使った、夢の中での快楽行為で、ある程度の鍛練は積んでいたが、現実世界でペニスを愛撫される快感に耐え抜く自信は、彼女にはまだない。

「ん……ゴホッ、ゴホッ……」

プールサイドに倒れ伏していたクラスメイトたちが、咳き込みながら、ゆっくりと身を起こした。

「皆さん、気がついたんですね？　早く逃げてくださいッ！」

有佳の叫びに、水着姿の少女たちは、濡れた髪から水滴を滴らせながら、ゆっくりと振り向いた。

「……逃げる？　これから楽しくなるのに、どうして逃げなきゃイケナイの？」

「そうだよ、これからとっきーを一杯気持ちよくしてあげるんだから、とっきーの嫁はそこで見ててね」

いつもよりも賑やかさに乏しい声で告げた女子生徒たちは、競泳水着の股間に勃起の輪郭を浮き出させた呪詛（ノイローゼ）喰らい師に向かって、ゆっくりと歩み寄ってくる。

「まさか……操られている⁉　咲妃さん逃げてくださいッ！」

「取り乱すな、有佳。こういう展開も想定済み。これが私の……神伽の巫女の仕事だ。全てを受け入れ、喰らい、浄化してこの身に取り込む！」

今にも泣き出しそうな表情を浮かべる恋人に、力強い声で呼びかけた咲妃は、近づいてくる級友たちを落ち着き払った眼差しで見つめる。

（神格で勝る淫ノ根との正面対決を避け、操られた女子たちに私を嬲らせるつもりだな……春学祭の淫宴、再びといった趣（おもむき）だが）

自我は保ったまま、理性の枷だけが緩められた状態で淫神に操られた女子たちは、羞恥心やモラルをかなぐり捨て、獲物を貪るピラニアの群れのように、咲妃の肢体に手を伸ばしてきた。

「あはぁ、とっきーのオチンチン、カレシのよりもおっきい」

「すごいオッパイ。とっきーって、隠れ巨乳だったんだね」

股間で存在を際立たせた勃起と、量感溢れる爆乳が、集中的に弄られる。

「ふぁぁ！　アッ、そっ、そんなに強く握るなッ！　んきゅううううンッ！」

感度抜群のペニスは、薄いナイロン布越しに肉茎を掴んで弄り回される刺激に反応してビクビクとしゃくり上げながら、充血をさらに強めてゆく。

「硬い……熱さが伝わってくるよ。きゃはっ、ビクビクしてるぅ♪」

硬質ゴムのように生硬く充血した肉茎が、根本から先端まで何度も撫で擦られ、濃紺の布地を突き破らんばかりに張り詰めさせた亀頭の先端が、執拗に嬲られる。

布地に浮き出た鈴口のワレメを、指の腹で擦られ、爪の先で甘掻きして責められているうちに、水飴のように濃厚な先走りが布地を染み透って滲み出してくる。
「うぁ……はぁんっ！　くっ……あ、はうっ！　く……う……」
水着越しの亀頭責めに美貌を歪め、切れ切れに呻く咲妃の艶姿は、操られた少女たちを激しく昂ぶらせた。
「我慢汁出てきたよ。先っぽ弄られるの、気持ちいいんだ？」
「とっきーの身体って、ホントにエロエロだよねぇ……」
卑猥な笑みを浮かべ、興奮で顔を紅潮させた水着少女たちは、クラスメイトの勃起を好き放題に弄り回す。ペニス弄りにあぶれた女子たちは、仰向けになってもほとんど形の崩れないお椀型の爆乳に群がっていた。
「とっきーの乳首、すごくボッキしてるよ……ちょっと味見してみようかな」
揉みくちゃにされているたわわな肉果の先端で、濃紺の水着生地をツンと尖らせた乳頭に唇が吸いつく。反対側の乳首にも、別の女子生徒が吸いつき、チュウチュウとはしたない吸い音を立て始めた。
「ふぁ！　あッ！　くふうぅぅんっ！」
吸いついた唇がすぼめられ、生暖かくざらついた舌先が、布越しの先端を甘噛み混じりに舐め回すと、刺激に反応した乳首は、ジンジンと疼きながらさらに勃起を強めてしまう。
「ちゅぱ……はぁぁ、プリプリしてるぅ」

少女たちの唇が離れると、勃起した乳頭が、唾液の濡れ染みのできた水着を突き破らんばかりに尖り勃つ。
「これで、もっとエロエロになったね。一杯モミモミしてあげる」
勃起乳首の輪郭をあからさまに浮き出させたボリューム満点の柔肉が、休む間もなくこね回され、股布に先汁の濡れ染みを形成した少女の勃起が、ぎこちないながらも執拗な手コキ責めにさらされる。
「ひうぅぅんっ！　アッ、くぁ、はぁあぁぁぁウンッ！」
クラスメイトたちの愛撫を受けた神伽の巫女は、快感に翻弄されながらも、頑なに絶頂に抗い続けていた。
（まだだッ！　まだ、神気が練り上げられていない……もっと、もっと耐えて、精液に神気を練り込まねば……）
神の餓えと渇きを癒す流派、ウズメ流を極めた退魔少女は、理性をも焼き尽くしてしまいそうな快感の劫火に炙られながら、体内で神気を練り上げてゆく。
「あー、下手すぎて見ていられない。手本を見せてあげるから、交代しなさい」
教え子たちを押しのけて割り込んできたのは、淫神に操られた女体育教師であった。
小麦色に日焼けしたスポーティー美女の手指が、水着越しの勃起を握り締める。
「くぁ！　はぁぁぁうんっ！」
クラスメイトたちの拙い愛撫とは桁違いに深く鋭い快感に勃起の芯を貫かれ、神伽の巫

女は切羽詰まった声を上げて競泳水着姿の肢体を硬直させた。
「すごく硬い……サイズも、亀頭の生育具合も申し分なし。こんなに虐めがいのあるチンポは久し振りだわ。フフフッ」
根本から先端までじっくりと指を這わせ、今にもはち切れてしまいそうに充血した海綿体の硬度と感度を確認した女教師の指は、下腹にめり込んだ肉柱に沿って、緩急交えた摩擦運動を開始する。
「ふぁぁ！　くふうぅんっ！　んっんっんっんっ……あぁぁぁンッ」
前後に滑る指の動きに連動して、咲妃の喉奥から、甘く裏返った快感の声が搾り出される。巧みな摩擦快感にビクビクと反応した美少女のペニスは、大量の先走りを溢れさせ、競泳水着の股間にできた濡れ染みを急激に拡大させた。
「ほおら、カウパーが溢れてきた。この立派な亀頭も、たっぷりと虐めてあげるわ」
親指の腹が敏感な裏筋から鈴口に至る縦筋を絶妙の力加減で擦り上げ、反対側の手指が亀頭全体をくすぐるように舞い踊る。
「ヒイィィッ！　あ、あぁぁッ！　そこぉ、そこは、アッアッアッ、くひゅうぅぅッ！」
敏感な亀頭を掻痒快感に包み込まれた少女は、しなやかな肢体を弓なりに仰け反らせてよがり悶えてしまう。
「先生、どこでそんな超エロエロなテク覚えたんですか？」
年季の入った亀頭責めのテクニックを見せつけられた女子たちが、興味津々の様子で質

問する。
「フフフッ、学生時代、水泳部の合宿で、男子たち相手にね……。部員内で本番禁止の取り決めがあったから、手と口だけで抜きまくってやったのよ。何人も同時に相手したこともあったなぁ」
赤裸々な告白をしながら、女教師は教え子の股間で震えるフタナリペニスを熟練のテクニックで責め立てる。
「あなたたちも覚えておいて損はないわよ。こうやって、根本を締めつけながら亀頭を擦ると、イキそうになってもなかなか出せないから、エッチの主導権を握れるのよ」
女教師は解説を交えながら、勃起の根本を強く圧迫して暴発を阻止しつつ、亀頭を包み込んだ手首にスナップを利かせて、敏感な先端部を磨り潰さんばかりの勢いで刺激する。
「はあぁぁぁぁぁぁ〜うっ！　あっあっあっ、くはあぁぁぁぁッ！」
ハードな亀頭責めの快感に射精中枢を直撃されながらも、放出を封じられた咲妃は、出すに出せぬ生殺しの絶頂感に悶え狂う。
「すごく脈動してる。指の輪っかが振りきられそうだわ。でも、まだまだ出させてあげない。もっともっと痺れさせてあげる！」
興奮した声を上げた女教師は、射精封じされたペニスをさらに激しく責め立てた。
「このままじゃ、水着に擦れて痛いでしょう？　ローション代わりよ」
先走りで濡れてはいるが、まだまだ潤滑不足な競泳水着の股間に、熱い唾液がトロトロ

と垂らされる。
「ふぁ、はぁぁん……」
淫熱を帯びた湿り気に、敏感な亀頭を包み込まれたフタナリ美少女は、悩ましげな声を上げ、競泳水着に包まれたダイナミックな肢体をわななかせた。
「これでいいわ……亀頭責めのテク、たっぷり味わってもらうわよ」
ペニス責めに慣れている女教師は、時折、唾液を追加しながら、射精封じした勃起の先端部だけを徹底的に責め立てた。
濡れた水着生地を使い、亀頭の表面を磨き上げるようにこね回し、鉤形に曲げた指先で、鈴口の敏感なワレメを掘り返すように刺激する。
「ひぁ、あぐうううっ！　あひぃッ、くぁ、あ、アッ、んあぁ……きゃふうぅっ！」
屈服し、射精をおねだりしてしまおうか、という気持ちを抑え込み、神伽の巫女は、イクにイけない焦らし責めに耐え続けた。
やがて、射精欲求に張り詰めたペニスの脈動は指の力では押さえきれぬほどに力強さを増し、揉み嬲られている亀頭のワレメから溢れる先汁にも、白濁した精液が混じり始める。
「先生、そろそろ出させてあげようよ」
亀頭責めに夢中になっている女教師に、女子生徒が声をかける。
「そうね……私の中の声も、精液が欲しいって言ってるわ。常磐城さん、いいわよ、射精しなさい。出して、セーエキ……出しなさいッ！」

肉茎の根本を縛めていた指が離れ、亀頭を圧迫責めしていた指先が水着の布越しに鈴口を抉って、とどめの快感を送り込む。

「ひあぁぁぁぁぁンッ！　出るッ、出る……くふうぅぅぅぅぅ〜ンッ!!」

全身の筋肉が股間の逸物に向かって絞り込まれ、恥骨の裏側に蓄積されていた狂おしい圧力が一気に解放された。気が遠くなりそうな歓喜を伴った脈動によって搾り出された灼熱の奔流が、勃起の芯を貫き、とてつもない解放感と共に噴出する。

びゅくんっ、びくびくびくんっ！　どくうううんんっ！　びゅくびゅくびゅくどくんっ！　どぴゅううっ、びゅっ、びゅっ、びゅっ、びゅうううっ、びゅうううっ、どぴゅるるるっ！　どぷううっ、びゅくんっ！　どびゅるるるる〜ッ！

今にも破れてしまいそうに張り詰めたナイロン生地を貫いて、濃厚な真珠色をした射精液が噴水のような勢いで迸った。

水着生地で初速が弱められているはずなのに、噴き出したスペルマは、射精痙攣に揺れ弾む豊乳にまで飛び散り、濃紺の競泳水着を張り詰めさせた乳球の曲面を白く塗り込めてゆく。

「んぁ、あぁぁ、出るッ！　まだ……出るッ、あっあっはぁぁぁぁうぅぅンッ！」

「すごい、こんなに一杯出るなんて、あぁ、ステキ……」

女教師は、力強い脈動と共に射精を続けるペニスをきつく握って、絶頂痙攣する肉胴の芯を流れてゆくスペルマのプリプリした感触を堪能している。

ジャララッ！　ジャララララッ！
金属の鳴る音を立てて、少女の体内から、オーロラのように妖しく輝く鎖が伸び出て、メリハリの利いた肉体を緊縛してゆく。鎖が伸び出ているのは、うなじ、脇の下、腰の後ろ側などの、俗に言う「霊門」と呼ばれる部位であった。
「くはぁう……んんんんっ……な、何だ？　これは？」
肉体の内側から湧き出してくる鎖に自由を奪われ、床に倒れ込んだ呪詛喰らい師（カースイーター）は、さすがに驚愕の表情を浮かべて身悶える。
「カースイーター捕獲作戦、大成功～♪」
能天気でありながら、妖艶な響きも感じさせる声を上げ、淫蕩な女術者、ゼムリヤが姿を現わした。いつも身にまとっている毛皮コートは既に使い魔の人狼ヴォルフに姿を変え、褐色美女に付き従って護衛任務をこなしている。
「アナタの身体に絡みついているのは、『アルス・ノウァの縛鎖』っていう、最強クラスの捕縛用呪物よ。縛められた者の肉体と霊体、双方を緊縛するの」
自慢げな声を上げたゼムリヤは、体内から湧き出た鎖に自由を奪われた退魔少女に微笑みかける。
「あの女たちの身体に、こんなモノが仕掛けられているとは、意外だったな……」
身動きを封じられてもなお、咲妃は飄々とした口調でつぶやいた。
「気付かなかったでしょう？　八人の肉体に分割して仕掛けられた呪詛が、一つに合わさ

った時に発動する仕掛けなの。本来は、術者の命令に従わないほど強大化した悪魔（シェッディム）を捕獲するために、生け贄に仕込む超高等呪術で、レメゲトン派の究極奥義なのよ」

勝ち誇った声で解説した繰霊術者は、緊縛された咲妃の顔を覗き込んでくる。

「ご大層な術だな。だが、淫神が絡んでいれば、たとえ罠とわかっていても伽をするのが神伽の巫女の責務……。これも想定のうちだ」

囚われの呪詛喰らい師（カースイーター）は、妖艶な褐色美女を睨みながら、勝ち気に言い返す。

「フフフッ、その強気な態度がいつまで続くか楽しみだわ。ヴォルフ、運びなさい」

「御意！」

主の命令に渋い声で応じた人狼は、鎖に緊縛された呪詛喰らい師（カースイーター）の身体を軽々と抱き上げ、運んでゆく。

咲妃が連れてこられたのは、最上階にある展望レストランであった。

結婚式やコンサート、ディナーショーなどのイベントも開けるように、立派な舞台と音響設備を備えている。

人狼に抱えられた咲妃は、舞台の上へと運ばれ、身体を縛める鎖に、天井からぶら下がったフックを引っかけられ、片足を高々と上げたバレリーナのようなスタイルで宙吊りにされた。

吊るされた咲妃の周囲には、リモコン式のビデオカメラを設置したスタンドが何本も並べられ、あらゆる角度から捉えた少女の肢体を、後方の大型スクリーンに映し出せるよう

になっている。
　舞台の正面に並べられたテーブルには、仮面で鼻から上を隠した十数人の男たちが豪華な食事を摂りつつ談笑しており、その後方では、彼らのボディガードらしい屈強な男たちが数十人、微動だにせずに待機していた。
「胡散臭い連中を集めて、九未知（アンノウンズ）主催のお食事会か？」
　どう見てもまっとうな企業や団体の重鎮とは思えぬ剣呑な雰囲気を発している男どもを見回しつつ、縛鎖に縛められた少女はゼムリヤに問いかける。
「紹介するわ。アタシに協力してくださっている、裏社会の重鎮の方々よ。実験素材の調達から、術式用の土地の確保まで、合法、非合法両面で絶大なご支持をしていただいているわ。このホテルも、オジサマたちのご協力で借り受けたモノなの」
「悪党揃いだな。これまで虐（しいた）げてきた人々の呪詛が全身に染みついているぞ」
　好奇と色欲の入り交じった視線を仮面越しに投げかけてくる男どもを見据えながら、拘束された少女は吐き捨てるように告げる。
「なかなか的を射た評価だわ。そう、このオジサマ方は、真の悪人なのよ」
　色っぽい含み笑いを漏らしたゼムリヤは、舞台に立っていたマイクスタンドから、ワイヤレスマイクを抜き出して手に取った。
「皆様、お待たせしました。ようやく今夜のメインディッシュが届きましたわ。まずはご挨拶代わりに、神伽の巫女の秘められた部分をご覧に入れましょう」

褐色美女の目配せを受けた人狼ヴォルフが、咲妃の豊満なバストを守る革帯ボンデージに鋭い爪の生えた指先を引っかけ、無造作にずり降ろした。
過剰なまでに張り詰めた色白な爆乳が、薄紅色の乳首と乳輪の残像を描きながら、プリュリュンッと弾み出る。
若々しくきめ細かな乳球の先端では、尖りの強い乳首と、ふっくらと丸く盛り上がった乳輪が、男どもの卑猥な視線に挑むかのようにツンと天を向いていた。
「ええ乳しとるやないけ、後で、たーっぷりと揉んだり吸ったりさせてもらうでぇ！」
脂ぎった禿げ頭を照り光らせながら、ヤクザの組長風の男が下卑た関西弁で野次ると、取り巻きの連中が追従の笑い声を上げた。
「オッパイの次は、いよいよオマ〇コをご覧いただきます」
革帯の退魔装束を脇にずらされ、秘部をあらわにされても、神伽の巫女の不敵な表情は揺るがなかった。
「おおお！　色艶、形共にパーフェクトだ！　こんなに美しい女性器は見たことがない……まさに芸術品だな」
ロマンスグレーの髪をオールバックにした初老の男が、舞台に詰め寄るようにして秘裂を覗き込みながら、感嘆の声を漏らす。
「オマ〇コに負けないぐらい尻穴も美しいじゃないか。一晩中臭いを嗅いで恥じらわせながら舐めしゃぶっていたくなる極上ケツマ〇コだ。本当に美味そうだ、ああ、無性に腹が

減ってきたぞ！」

肉塊のように太った男が、ブヒブヒと鼻を鳴らして言いながら、テーブルに置かれたステーキを手づかみで貪り喰う。

「美しいでしょう？　この肉体は、淫神に奉仕し、その力の核を取り込むために練り上げられたもの。その中でも、口と肛門は、淫神を受け入れる門として使われているんですのよ」

色っぽい声で解説しながら、褐色肌の淫女は、剥き出しになった咲妃のアヌスに、革手袋に包まれた細くたおやかな指先を這わせて弄ぶ。

「ひぅ……く……う……ンッ！」

鋭敏なすぼまりを、冷たくしっとりと湿った革手袋に撫でられる感触に、呪詛喰らい師（カースイーター）の喉奥から抑えきれぬ呻きが漏れる。

「ここから入った淫神は、身体の中の、どこでも好きなところに宿ることができるんですのよ。だから、常に清浄で、そして、極めて敏感……」

「くぁ、はぁぁう……ひぁ、んんんぅぅッ！」

淫女の指先が、喘ぐ唇と薄紅色のアヌスにあてがわれ、小皺を引き結んだ筋肉の蕾をやわやわとこね回すと、囚われの呪詛喰らい師（カースイーター）は、湧き起こる快感に身をよじらせて感じ悶えてしまう。

「気持ちいいのね？　可愛らしいお尻の穴が、アタシの指をキュウキュウ締めつけてるわ

よ。もう少し奥の方も弄ってあげましょうか」
　第二関節のあたりまで肛門に挿入した指先をさらに深くめり込ませて左右に捻りを加えながら、褐色肌の美女は、厚めの唇を淫蕩に笑み歪ませる。
「下拵(したごしら)えはこのくらいでいいわね」
　アヌスから指がゆっくりと引き抜かれた。
「神をも魅了する肉体の持ち主であるアナタが、はしたなく喘ぎながらウンチを漏らす姿を、皆さんに見ていただきましょうね」
「なっ、何だと!?」
　聞き捨てならぬひと言を告げたゼムリヤがパチンッ、と指を鳴らすと、人狼が責め具の乗った台を押してきた。台の上には、透明なローションを満杯にした大型バケツと、数本の極太浣腸器が並んでいる。
「並の快楽責めじゃあ、アナタは堕ちないでしょう？　徹底的に羞恥を与えて、プライドを粉微塵に打ち砕いてから、じっくりと調教してあげる」
　妖艶な美貌にサディスティックな笑みを浮かべた褐色美女は、マイクを手にすると、観客席に呼びかける。
「凄腕の傭兵を軽々とあしらう呪詛喰(カースイーター)らい師の強さは、先ほどご覧いただけましたでしょう？　この、強く気丈な美少女に浣腸責めをして悶え泣かせる権利、おいくらで買っていただけます？」

「百万ッ！　百万円出そう！」「百五十ッ！」「こっちは二百出すぞ！」
淫辱行為のオークションが始まると、裏社会の男どもは口々に入札価格を叫び、あっという間に額が跳ね上がってゆく。
「はなはだ不愉快だが、私も随分な値が付くものだな……」
盛り上がっている悪党どもを冷めた目で眺めながら、囚われの退魔少女は気丈さを失っていない口調で吐き捨てる。
「おめでとうございます。アナタが見事に権利ゲットですわ♪」
最高金額を付けた銀髪オールバックの男がステージ上に招かれ、鎖を引かれて前のめりの体位を取らされた咲妃の背後に立った。
「本当に美しいアヌスとオマ〇コだな。チンポをぶち込んでやれないのが残念だ」
ムッチリと肉の乗った尻の谷間に顔を寄せ、呪詛喰らい師（カースイーター）の股間を、荒い鼻息がくすぐるほどの距離で観察しながら言った男は、ゼムリヤから受け取った極太浣腸器のノズルで、呪詛喰らい師（カースイーター）の尻穴を弄ぶ。
「可愛いケツ穴がヒクヒク動いているぞ。恥ずかしいのかな？　クククッ」
冷たく硬いガラスの筒先が敏感な蕾の小皺を一本一本なぞるように撫でくすぐってくる感触に、薄紅色の美肛門は、キュッ、キュッ、と卑猥な収縮を起こして、責め役の男を楽しませた。
「ンッ……く……ふぁぅ……」

囚われの呪詛喰らい師（カースイーター）は、わずかに頬を染め、切れ切れの喘ぎを漏らしながらも、表情を崩さず辱めに耐えている。
「そおれ、ズッポリと行くぞ！」
ローションに濡れ光る小皺の中心に、冷たいノズルがねじ込まれ、陵辱粘液の注入が開始された。
「くぁ！　んきゅうぅぅ……ンッ！」
人肌程度に温められた大量のローションが、直腸内にニュルニュルと注ぎ込まれてくる不快な感触に、革帯ボンデージ姿の若々しい肢体が緊張する。
ピストンが深く押し込まれ、粘性の強いローションは直腸内を満杯にして、さらに奥へ、奥へと送り込まれてきた。
「う……あ……くはぁぁ……ぐ……んんんッ！」
過剰に注ぎ込まれた粘液が消化管を張り詰めさせながら結腸部にまで侵入してくる鈍痛に、呪詛喰らい師（カースイーター）の勝ち気な美貌が歪む。
「クククッ、苦しいかね？　しかし、まだ半分しか入っていないぞ」
サディスティックで好色な笑みを浮かべた男は、浣腸器のピストンを深々と押し込み、特製のローションを残らず尻穴内部に注入した。
「もう一本注入させてくれ！　金額は、さっきの五割増しでいい！」
「それなら、こっちは二倍出すぞ！」「ワシは三倍出すでぇ！」

凛々しい顔立ちを苦悶に歪める美少女の痴態に興奮した男どもは、仲間割れを起こしかねない殺伐とした気を漂わせて、浣腸オークションに熱狂する。
「予想以上の人気ね……これ以上激昂させるのは、色々とマズイわね」
結局、ゼムリヤの提案で、その場にいた男たち全員が金を出しあい、咲妃の尻穴に特殊ローションを注入する権利を獲得することとなった。
それは、少女の腸内に数リットルの浣腸液が注ぎ込まれることを意味している。
裏社会で数々の悪事に手を染め、司法機関もなかなか手を出せぬ大物犯罪者どもが、極太浣腸器を手に少女に迫る様は、ある意味滑稽ですらあった。
「私にはこういう趣味はないはずなのだが、妙に興奮する。癖になりそうだよ」
銀髪オールバックの紳士が、ぎこちない手つきでピストンを押し込んだ。
「儂が注ぎ込んだ浣腸液が、どんなに臭い糞になって出てくるのか楽しみだ」
臭いフェチの肥満男が、ニヤニヤ笑いながら浣腸液を注入する。
「ウッ……フフッ……きっと……失望すると思うぞ……く……んんッ！」
「生意気な小娘め、オレの会社の傭兵たちをコケにした罰を受けてもらうぞ！」
傭兵たちの親玉らしいひげ面男は、白く肉感的なヒップを平手打ちしながら、力一杯ローションを注ぎ込んだ。
「くぁ、あ、くふぅぅ……んッ！」
赤い手形を刻印された尻に汗粒を吹き出させ、重く張り詰め始めた下腹の鈍痛に呻く

呪詛喰らい師（カースイーター）のアヌスに、悪党どもの歪んだ欲望がさらに注ぎ込まれる。
「ホントにいい身体したお嬢ちゃんだな。うちの会社がやってる裏ポルノサイトで有料配信したら、数億ぐらい一日で稼げるぜ」
病的に痩せた男が、慣れた手つきで浣腸液を小出しに注入して、咲妃の苦悶する様子を存分に楽しんだ。
十数人の男たちは、恥辱を煽る言葉を囚われの退魔少女に投げかけながら、可憐なアヌスの奥に恥辱の粘液を送り込んでくる。
「……そおら、ワシでラストや！　ネエちゃん、よう辛抱したなぁ」
関西弁のヤクザ幹部が、どんなに辱められても慎ましやかなたたずまいを崩さず引き絞られた薄紅色の蕾に浣腸器の先端をねじ込み、汗ばんだヒップを舐め回しながら、特殊ローションをジワジワと注ぎ込む。
「んくぅぅ、あ、はぁぁう……ひぐうううっ！　はぁう……んっ、あぐうぅぅんッ！」
勝ち気な美貌を脂汗に光らせて苦悶する咲妃の肛門に、鈴付きのアナルプラグがねじ込まれ、革製のバンドでしっかりと固定された。
大量の浣腸液を注ぎ込まれた呪詛喰らい師（カースイーター）の下腹は、妊娠中期の妊婦のようにポッコリと膨れあがり、革帯ボンデージされた肢体に禁忌のエロスを加味している。
「浣腸が効いてくるまで、しばらくお話ししましょうか？」
連続浣腸を受けても、泣き言一つ漏らさずに恥辱に耐えている咲妃に、ゼムリヤが妖し

い声をかけて来る。
「呪詛喰らい師（カースイーター）に、亜神や人間による陵辱、特に中出しは御法度。消耗した気を補充させるだけですものね。でも、精気や霊気をまったく含んでいないモノで責めれば、体力や神気の回復もできないでしょう？」
黒革のロンググローブに包まれた指先で、咲妃の汗ばんだ尻肌や、妊婦のように張り出した下腹部を撫で回しながら、褐色肌の淫女は語りかけた。
「くぁ……あぁぁう……うッ！　く……うんんんッ！」
ぐぎゅるるるっ……。額に汗を浮かべて呻く咲妃の下腹が、はしたない音を立てた。
「腸の蠕動（ぜんどう）が始まったようね？　その特殊ローションは、アナタの腸内で水分を吸収されると、ゼリー状に固まるのよ。当然、ウンチがしたくて堪らなくなる成分も入っているし、固まる過程で、大量のガスを発生させるの。ステキでしょう？」
「ぐ……ぅ……卑劣で、悪趣味だな……んくぅ、ウッ……はぐぅぅんッ！」
ぎゅごろろろろっ……ぐぎゅるるるるぅっ！　張り詰めた下腹が、ひときわ大きく恥音を奏で、メリハリに富んだ緊縛ボディに、ドッ！　と脂汗が噴き出す。
（あぁぁ……この感触……久しく忘れていた……便意とは、これほどまでに抗いがたく、これほどまでに苦しいものだったのか？）
神伽の巫女となって以来、彼女を悩ませたことのない生理現象を久々に味わった退魔少女は、込み上げてくる排泄欲求と、腹腔の奥でうねる凝固ローションの異物感に、汗まみ

れの緊縛ボディを強張らせる。
「今のアナタは、呪詛喰らい師（カースイーター）でも、神伽の巫女でもないわ。ウンチがしたくて堪らないだけの、ただの小娘なのよ」
呪縛の鎖に縛められた少女の下腹を、黒手袋に包まれた淫女の指がジワリ、と圧迫してくる。腹膜を張り詰めさせた膨張感と激痛が一気に高まり、耐えようとする意思に関係なく、高まりすぎた圧力が肛門目指して殺到してくる。
「ぐぁぁうッ！」
ブピッ！　プスウウッ、ブピルルルッ！
くぐもった声を上げた少女の尻から、誰にも聞かせたくないガス噴出音が響く。
妊婦のように膨れあがった下腹に、黒く細い指がめり込むたびに、恥辱のガスが揉み出され、アナルプラグを咥え込まされた尻穴を高く、低く震わせた。
「ええ屁の音やなぁ。ケータイの着メロにしたいでぇ！」
ヤクザ男が言うと、裏社会の男たちは下品で無慈悲な笑い声を上げる。
「はあぁぁう……ぐむ……んんんッ！」
汗びっしょりになったボンデージ肢体がガクガクと痙攣し、冷たい汗に濡れた美貌も、押し寄せる排泄欲求に歪んで、凛々しさを失ってゆく。
「ひと言、『ウンチさせてください』って叫べば、アナルプラグをすぐに抜いてあげるわ。やせ我慢せずに、言っちゃいなさい」

「フッ、誰が言うものか！　お前には……死んでも屈しないッ！」
刃物のようなきらめきを宿した瞳で、サディスティックな褐色美女を睨みつけた呪詛喰らい師は、震える声で言い返す。
「いいわぁ、その反抗的な目で睨まれただけで、ゾクゾクしてオシッコ漏れちゃいそうよ。でも、アタシがお漏らしする前に、アナタがウンチ漏らすのよ！」
繰霊術にも使用する乗馬鞭を手にしたゼムリヤは、咲妃の尻たぶを無造作に打ち据えた。パシイインッ！　鋭い打擲音が響き、衝撃に震える美尻から、霧状になった汗粒が飛散する。
「ふぁ！　はぁぁぁぁぁンッ！」
縛鎖に緊縛された呪詛喰らい師に艶めかしい悲鳴を上げさせたのは、痛みではなく、壮絶な快感であった。鞭打たれた衝撃が、快感神経を根こそぎ掻き鳴らし、排泄衝動に疼く内臓にまでビリビリと伝わってくる。
「いい声だぁ！　もっと、もっと打て！」
客席からの声に淫蕩な微笑みで応えたゼムリヤは、連続して鞭を振るう。
ピシアァンッ！　ビシインッ！　パンッ、パンッ、パァァァァンッ！
「ひぁぁぅんっ！　あひいいんっ！　ヒッ、アッ、ひぎいっ！　きゅふうぅぅぅんッ！」
汗に濡れ光る色白な豊臀に、紅色の鞭痕が刻印されるたびに、アナルプラグを飾った鈴がチリチリと鳴り、呪詛喰らい師の苦鳴に色を添えた。

ブビュッ！　プピイィィッ！　ブビビビッ！

鞭打たれる衝撃で全身の筋肉が収縮するたびに、暴発を封じられた尻穴から甲高い放屁音が上がり、見守る男どもに下卑た歓声を上げさせる。

（熱い……ッ！　尻が……燃える……身体中が、煮えたぎって……あぁぁ……ッ！）

まるで、炙り焼きにされているかのような灼熱感に包まれた尻から発した妖しい波紋は、排泄欲求に強張り悶える全身を火照らせ、苦痛が快感へと変わるマゾ快感への分岐点へと、呪詛喰らい師の肉体を疾走させてゆく。

「いかがかしら？　快感の耐性はあっても、こういう責めは効くでしょう？　身体が敏感な分、余計に苦しいわよねッ!?　あら、気持ちよさそうな声が出始めたんじゃなくって？　ほおら、もっと色っぽい声をお出しなさい！」

咲妃の上げる声に、艶めかしい響きが混じり始めたのを指摘しつつ、淫蕩なる女術者は鞭打ち責めに熱中してゆく。黒革のビスチェとロングブーツ、ロンググローブをまとった褐色ボディは、噴き出た汗にぬめ光り、鞭痕だらけの尻を凝視する瞳には熱い欲情の炎が燃え盛っていた。

「いいわぁ。あなたのお尻、打ちごたえ満点よ……でも、とどめはここよっ！」

下から薙ぎ上げられた乗馬鞭が狙ったのは、鮮やかなサーモンピンクに色付いた秘裂であった。

パシイイイイインッ！　鋭い音を立てて、最も敏感なワレメに鞭が打ち込まれる。

「ひぎいっ！　ヒッ！　イッ、くはああぁぁぁぁぁぁぁぁ〜ンッ!!」
鞭打たれた性器から発した衝撃は、少女の意識を一気に被虐絶頂の領域へと飛翔させ、限界に達していた括約筋を完全に弛緩させてしまう。
プシイイッ！　シャパアァァァァァ〜ッ!!
緩みきった尿口から、熱い尿水が放物線を描いて排泄され、床に飛沫を散らす。
「オマ〇コ鞭打たれて、オシッコ漏らしながらイッちゃうなんて、すっかりマゾ快感に目覚めたみたいね？」
「ハァハァハァハァ……余分な圧力が減って、これで、少し楽になった」
内臓を搾り上げるような苦痛を伴って押し寄せる排泄欲求に顔を歪めながらも、咲妃は減らず口を叩くだけの気丈さを失っていない。
「さすがね……。アナタの忍耐力に敬意を表して、一つ、賭けをしない？」
「賭け、だと？」
「ええ。アナタの腸と同化している亜神に、少しだけエネルギーを与えてあげるわ。活性化した亜神が、ウンチを全て吸収、浄化すれば、アナタの勝ちよ」
妖しい笑みを浮かべたゼムリヤが、パチンッ、と指を鳴らすと、大型のワイングラスに入った白濁液が運ばれてきた。
「オジサマ方のボディガードの皆さんに、元気一杯の精液を提供していただいたわ」
「やはりそういう趣向か……くぅ……んぐうぅぅッ！」

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル
TEL03-3555-3431（販売）／FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改さん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
ⓒKILL TIME COMMUNICATION　Printed in Japan

http://ktcom.jp/

仙獄学艶戦姫 NOBUNAGA!

ノブナガッ! comic

待たせたな

信長が、秀吉が、義元が、エッチにバトルにと漫画で大活躍！
もうひとつの『仙獄学艶戦姫ノブナガッ!』がここにある!!

毎月中旬
発売!!
18歳未満の方は
購入できません
18

漫画：老眼
原作：斐芝嘉和
キャラクター原案：SAIPACo.

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス
『闘神艶戯』偶数号にて連載中！

編集・発行 キルタイムコミュニケーション
〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル TEL:03-3555-3431(販売) FAX:03-3551-1208
http://ktcom.jp/

ATOMIC POCKET NOVELS NEW RELEASE

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル／毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価／690円（税込）

全国書店で好評発売中

男の子と女の子——

二つの性の間で揺れ動く
男の娘が巻き起こす学園ラブコメディ!!

オトミコ！ 僕は男の巫女娘

【小説：大熊狸喜／挿絵：大空樹】

全国書店で好評発売中

全国書店で好評発売中

凄腕退魔士の咲妃を牝奴隷に堕とす新たな敵の登場!

呪詛喰らい師2

【小説：蒼井村正／挿絵：或十せねか】

目覚めると従姉妹を護る美少女剣士になっていた

【小説：狩野景／挿絵：天鬼とうり】

全国書店で好評発売中

平凡な少年が女体化！鬼に狙われた従姉妹を護れ!!

既刊LINEUP

全国書店で好評発売中

- 仙獄学艶戦姫ノブナガ!! ①〜③
- ビルグリムメイデン ①〜③
- 不死の吸血鬼がHSのご主人様を募集しているようです
- 恐春期なアダム ①〜④
- 呪詛喰らい師【カースイーター】
- 女幹部メル様のセカイ征服計画!
- 借金お嬢クリス ①〜③
- 無敵の姫騎士がHMに目覚めたようです
- 宇宙海賊学園ブラックキャット

KTC 発行◎株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル TEL:03-3555-3431（販売）FAX:03-3551-1208

▶最新情報は公式サイトへ！ あとみっく文庫 検索

コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト http://ktcom.jp/

title:

ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』 トキサナ

『ドSの流儀』 chaccu

『生徒会長前哨戦?』 天道まさえ

title:

発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉

電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中!

※18歳未満の方は購入できません。

あとみっく文庫 既刊情報

思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田睦月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった! ごく普通な少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する!

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃

思春期なアダム2 背後をねらう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、睦月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たなる刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱! “蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女&美少年(!?)たちの誘惑で、睦月も新たな局面に…?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃

詳しくはKTCのオフィシャルサイトで http://ktcom.jp/

あとみっく文庫 既刊情報

思春期なアダム3 一人泣きの子猫

蛇眼の力を持つ睦月をそれぞれの思惑で見守る、天使少女に悪魔少年&秘密組織の美少女たち。そこに睦月の命を狙う刺客――黒猫が再び襲いかかる…も、睦月は球技大会のバレーボール特訓や、蛇眼の力を抑えるためのエッチに大忙し!? 果たして彼の力を手に入れるのは誰だ!?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃

呪詛喰らい師（カースイーター）

人の強い想いを糧とする半妖神――淫神。常盤城咲妃は、呪印術と「ウズメ流神伽の戯」を駆使し、時にはその豊満な身体を差し出して彼らを鎮めていた。そんな彼女が派遣された街では淫神事件が次々と起き始めて……!? 迫りくる魔の手から友を守るため、咲妃は淫らな戦いに身を投じる!!

小説●蒼井村正
挿絵●或十せねか

詳しくはKTCのオフィシャルサイトで http://ktcom.jp/

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

http://ktcom.jp/

◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルの**バックナンバー**も買えるよ!
◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!
◎二次元編集部の愉快な**Blog**も更新中!

KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!